

# 小委員会の調査報告書

<p>教科名</p>	<p>国語・書写</p>	<p>委員長名 関谷克志</p>
<p>調査研究の経過</p>	<p>1 審議の概要</p> <p>(1) 第1回調査委員会を7月2日(木)に、稚内市役所正庁で開催し、国語・書写小委員会の委員長並びに副委員長を選出するとともに、調査研究の進め方等について確認した。</p> <p>(2) 7月3日(金)から7月22日(水)まで、「教科書見本本」、「教科書編修趣意書」、「採択参考資料」をもとに、調査研究を進めた。</p> <p>なお、調査研究した教科書見本本の発行者(略称)は、国語、書写ともに東京書籍、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書出版の五者である。</p> <p>2 調査研究の観点</p> <p>調査研究の観点は次のとおりである。</p> <p>(1) 「取扱い内容」について</p> <p>(2) 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(3) 「使用上の配慮等」について</p> <p>(4) 「その他」について</p>	
<p>調査研究に当たった際の配慮事項</p>	<p>次の点に配慮して調査研究を進めた。</p> <p>1 「取扱い内容」について</p> <p>(1) 学習指導要領の総則及び各教科、各学年の目標、内容等に基づいて取り上げられているか。</p> <p>(2) 知識・技能の習得、活用、探究に対応できるよう、既に学習した内容の系統的な反復学習や練習問題などによる繰り返し学習に関する内容、観察・実験やレポートの作成に関する内容、他教科との関連する内容、補充的な学習や発展的な学習に関する内容などがどのように取り扱われているか。</p> <p>2 「内容の構成・排列・分量等」について</p> <p>(1) 内容の構成・排列が、地域の実態や学年の発達の段階等に応じて、系統的・発展的に組織されているか。</p> <p>(2) 内容の分量が、各分野や各領域等ごと、全体としてどのようになっているか。</p> <p>3 「使用上の配慮等」について</p> <p>(1) 生徒の学習意欲を高める工夫がされているか。</p> <p>(2) 自ら課題解決に取り組み、主体的に学習に取り組めるよう工夫がされているか。</p> <p>(3) 目次、索引、注、諸表など、使用上の便宜は図られているか。</p> <p>4 「その他」について</p> <p>上記1～3に含まれないもので、全体を通じて特色があれば記載する。</p>	
<p>少数意見その他</p>	<p></p>	

様式 2

教科名	国語		
	出版社名	教科書名	番号
	東京書籍	新編新しい国語1・2・3	国語727・国語827・国語927
取扱内容	○話すこと・聞くことについて		
	<p>第1学年・・話す練習の前に「質問をしよう」ということで聞き手を育てることからスタートしているのが特徴的。「読むこと」で扱われる教材「話し方はどうかな」はどれくらいの速さで読むと聞きやすくなるのかを考えさせており教材間で連携が取れるようになっている。「ことわざ」スピーチを行う中で話す速さや間について復習した後、やはり聞き手の活動を意識した構成となっている。最後にグループディスカッションを行う展開だがここでも話を受けて返すという聞く方の姿勢を意識して展開されている。</p>		
	<p>第2学年・・「問題意識を持って聞く」という聞く姿勢の指導からスタートして「プレゼンテーション」の仕方を聞き手を意識して行う活動にしている。話し合いに発展する際に「リンクマップ」を使うということで話し合いに視点を持たせる工夫をしている。</p>		
	<p>第3学年・・「評価をしながら聞く」ために観点を設ける事を提案し、聞き方のバリエーションを増やしている。また、「場面に応じて話す」では条件を決めてスピーチを替えていくことを学習する。「話し合い」を最後に持ってきているがここでは「チャート式討論」を提案し、問題の論点をはっきりさせることを提案している。</p>		
取扱内容	○書くことについて		
	<p>第1学年・・詩の創作からスタートする。自分自身を取り上げることで文章を書きやすくして構成を考えるように設定している。その後は、「意見文」「案内や報告文」「新聞記事」「鑑賞文」を様々な種類の文章を書けるように設定して目的や意図の応じて書く力を育成しようとしている。</p>		
	<p>第2学年・・「読むこと教材」の「短歌を楽しむ」とリンクできるように「短歌の創作」が最初にきている。「食文化のレポート」「依頼状やお礼状」「記事を書く」を書く事に発展して句が1年生の時の「意見文」を再度学習し深みを持たせている。</p>		
取扱内容	<p>第3学年・・「読むこと教材」の「俳句の読み方、味わい方」とリンクできるように「俳句の創作」が盛り込まれている。その後「編集」や「批評文」という客観的な物の見方を育てる課題が設定されている。最後は3年間のまとめとして思い出を手紙にまとめる作業を持ってきている。</p>		
	○読むことについて（伝統的な言語文化についても含む）		
取扱内容	<p>第1学年・・○文学作品については短いものと長いものをそれぞれ取り入れて表現手がかりにして</p>		

思いを読み取り味わうことを提案している。「詩」で「名づけられた葉」を取り上げ、音楽科との連携も取れるようになっている。「少年の日の思い出」「トロッコ」といった他の教科書に掲載されている作品もしっかり扱う中で内容や要旨をつかむ活動を設定している。

○説明文では事実と意見を分けながら読むことを基本としながら表やグラフから読み取る作業などもできる教材となっている。「ニュースの見方を考えよう」ではメディアとの関わりについても考えさせられる内容となっている。広い範囲から情報を集めて活用する事を求めている

○古典については「伊曾保物語」で音読活動を取り上げている歴史的仮名遣いに触れている。「竹取物語」では現代のとの意味の違いに触れる。漢文基礎として「矛盾」を取り上げ、返り点などの読むための知識を持って2年生に向かえるように作られている。

第2学年・・・○「走れメロス」を初め「字のないはがき」「卒業ホームラン」という中学生にも共感しやすい作品を通じて表現の工夫や人物像をじっくりと読み込むことができる。

○説明文では新聞記事を比較したり印象の違いを話し合わせる活動を設定して情報を効果的に活用する力を養える。

○古典については「枕草子・徒然草」で係り結びを確認し、「平家物語」で文体について考えさせている。2年生に「漢詩」を持ってきており、漢文や漢詩の基本を押さえることができる。

第3学年・・・○文学作品では「形」で批評する活動を取り入れており社会に出て行く際に必要な力の育成を促している。「故郷」では社会の中で生きる人間について自分なりの意見を持たせることで文章を評価しながら読むことができる。

○説明文では同じテーマで書かれた2つの論文を読み、共通点や相違点を見つけることで論の進め方や構成について考えることができる。

○古典については「おくのほそ道」や「論語」などおなじみの作品が取り上げられる中、「万葉・古今・新古今」では16本と数多く取り上げられていて和歌の修辞法について学ぶことができる。「論語」では3年間のまとめとして既習事項を生かして読みながら味わい、自分の考えを書く活動となっている

#### ○知識技能の習得について

第1学年・・・言葉の単位から始まる内容だが、説明がシンプルでわかりやすい。説明の下段に例が載せてあり視覚的に認識することができる。内容は「文節」「単語分類」「活用のない自立語」とボリュームがある。各分野の最後に問題がついており学習内容の確認ができる。

	<p>第2学年・・・「用言の活用」と「助詞・助動詞」をやり早々に文法について終わると、敬語の働きを考える内容などに取り組む事になっている。「類義語」「対義語」「同訓異字」「同音異義語」といった内容も丁寧に扱っている。</p> <p>第3学年・・・文法事項は2年生で終わっているため活用の力を育てるべく「見分け方」などが出てくる。「熟語の構成」「熟字訓」「四字熟語」「間違えやすい言葉」などこれから社会に出るにあたり必要な言語に関する関心を育てる内容が盛り込まれている。</p>
<p>内容の構成・排列・分量等</p>	<p>○第1学年・・・最終的によい話し合いにするためにまずは相手の思いを受け止めたうえで自分の意見をどのように伝えていけばいいかという相手意識をしっかりと持たせることを意識して作られている。</p> <p>○第2学年・・・様々なタイプの文章を書く中に詩の創作などを盛り込み発想力の育成をするとともに意欲的な活動につながるようになっている。</p> <p>○第3学年・・・1・2年生での学習事項を踏まえて社会において言葉を積極的に活用できるように、問題を解決するため方法を話し合わせたりしている。</p> <p>※分量について</p> <p>第1学年・・・「話すこと・聞くこと」は3教材、「書くこと」は7教材「読むこと」は18教材となっており他の教科書と比べると「書くこと」の教材が多少多い。総ページは328ページ。B5版。</p> <p>第2学年・・・「話すこと・聞くこと」は3教材、「書くこと」は7教材「読むこと」17教材。総ページ336ページ。B5版</p> <p>第3学年・・・「話すこと・聞くこと」は3教材、「書くこと」は5教材「読むこと」は19教材となっている。総ページ336ページ。B5版</p> <p>「読書案内」が設けてあり、作品数は3学年とも90本以上となっていて数が多い。</p>
<p>使用上の配慮等</p>	<p>○各領域ごとに色分けがされており一目で分かるようになっている。</p> <p>○領域ごとの目標が巻頭に書かれており、1年間でどういう力をつけるのかが明確になっている。</p> <p>○読書案内として作者の別の作品を紹介していて並行読書をするにも役立つ。</p> <p>○「言葉の力」を設けて「批評の仕方」などの方法を明示している。</p> <p>○古文においては生徒にイメージを持ちやすいように大きなカラーの資料をつけている</p> <p>○生徒が主体的に学べるように作品の最初に学習の目標が書かれている。</p> <p>○学習の流れが分かるように巻頭に1年間の学習の流れを載せている。</p> <p>○古典の文法は中学では習わないが掲載されており、発展的な学習をする事もできる。</p> <p>○文学史も流れで教えることにはなっていないが一覧になっていて作品間の関係も見やすい。</p> <p>○学習用語を多数掲載することで学習の助けとなっている。</p> <p>○新出漢字は画数・部首・書き順・熟語例が載せてあり充実している。</p>

教科	国語			
	出版社名	教科書名		番号
	三省堂	現代の国語 1 現代の国語 2 現代の国語 3		15
取 扱 内 容	<p>○「話すこと・聞くこと」について</p> <p>【第1学年】スピーチ・質問・討論ゲーム・グループ新聞作りなどを通し、話す速度や間の取り方、自分の考えとの相違点の整理などと言った、話す・聞くことの基本を学ぶことができるようになっている。</p> <p>【第2学年】プレゼンテーション・パネルディスカッションを通して、資料・機器を効果的に活用して話すことや、異なる立場や考えを尊重して聞くことを学ぶことができるようになっている。</p> <p>【第3学年】ブックトークを通して状況に応じて話す力を養う。企画会議では合意を形成し課題を解決することを学ぶことができるようになっている。</p> <p>○「書くこと」について</p> <p>【第1学年】レポート・リーフレット作成を通し、調べたことをわかりやすく整理して、目的や相手に応じて情報を編集することを学ぶことができるようになっている。</p> <p>【第2学年】創作文作成を通し、描写の工夫を学ぶ。主張文作成を通し、立場と事実を明確にして構成を工夫することを学ぶ。手紙文作成を通し、相手や目的を意識して書くことを学ぶことができるようになっている。</p> <p>【第3学年】小論文・批評文の作成を通し、論理の展開を工夫して説得力を持たせたり、観察や分析を通して判断したりすることを学ぶことができるようになっている。</p> <p>○「読むこと」について</p> <p>【第1学年】文学的文章を通し、場面や人物に着目して登場人物の心情変化を捉えたり、説明的文章を通し、事実と意見を読み分けて要旨を捉えたり、目的や意図に応じて様々な文章に触れ、内容や的確に捉えることができるようになっている。</p> <p>【第2学年】文学的文章を通し、登場人物の言動の意味を考え、構成の特徴について考え交流したり、説明的文章を通し、ものの見方について知識・経験と関連づけて自分の考えを持ち、まとめたり、目的や意図に応じて文章の内容や表現の仕方に注意して読み、広く情報を集めて効果的に活用することを学ぶことができるようになっている。</p> <p>【第3学年】文学的文章を通し、場面や設定の仕方を捉えたり、説明的文章を通し、論理の展開の仕方を捉えたり、目的や意図に応じて文章の展開や表現の仕方などについて評価・批評しながら読むことができるようになっている。</p> <p>○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について</p> <p>【第1学年】古文の音読・故事成語・音声のしづみ・話し言葉と書き言葉の違い・接続、指示する語句・比喩等</p> <p>【第2学年】古文の超訳・漢詩・類義語や対義語・方言と共通語・敬語の意味と種類</p> <p>【第3学年】和歌・古文・漢文・和語、漢語、外来語・敬語の機能・言葉の現在、過去、未来</p>			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成・排列について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7つ(3学年は6つ)の大単元の中に「読む」と「書く」、あるいは「読む」と「話す・聞く」の領域を組み込み、各領域を均等に、系統的・発展的に学習できる構成がなされている。</li> <li>各学年の終わりに「話す・聞く」「書く」の複合的な教材を設け、既習事項を生かした学びができる工夫がなされている。</li> </ul> <p>○分量について</p> <p>【第1学年】「話す・聞く」5教材、「書く」6教材、「読む」15教材であり、総ページ数は320ページ。</p> <p>【第2学年】「話す・聞く」4教材、「書く」5教材、「読む」15教材であり、総ページ数は324ページ。</p> <p>【第3学年】「話す・聞く」5教材、「書く」4教材、「読む」16教材であり、総ページ数は308ページ。</p>			
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○学習意欲を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学びを広げよう」を掲載し、社会生活に活用できる言語活動を身につけられるような工夫がなされている。</li> <li>「読書の広場」を掲載し、読書に親しむ態度を養うことができるような工夫がなされている。</li> </ul> <p>○主体的に学習に取り組める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学びの道しるべ」を掲載し、学び方を確められるような工夫がなされている。</li> <li>読み方について主体的に学べる「読み方を学ぼう」を掲載し、2・3年の教科書では過年度のものも折り込みで掲載して振り返られるようになっている。</li> <li>「考える広場」や豊富な「参考資料」を掲載し、学習者の知的好奇心や探求心を喚起するような工夫がなされている。</li> </ul> <p>○使用上の便宜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮し、識別しにくい配色を避け、形や記号などの補助的手がかりが設けられている。</li> </ul>			

教科	国語		
出版社名	教科書名		番号
教育出版	伝え合う言葉 中学国語1 伝え合う言葉 中学国語2 伝え合う言葉 中学国語3		17
取 扱 内 容	<p>○「話すこと・聞くこと」について</p> <p>【第1学年】フリップを用いて報告することを通し、事実と意見を区別して話すことを学ぶ。友達のスピーチを聞くことを通し、他者との相違点を整理する。アイデアを出して話し合うことを通し、既習事項を生かす。</p> <p>【第2学年】図表を用いた提案を通し、構成や展開を考えて話すことを学ぶ。話を聞いて自分の考えと比べることを通し、論理の構成などを評価する。役割を決めて討論することを通し、既習事項を生かす。</p> <p>【第3学年】話を聞いて自分の表現に生かすことを通し、自分のものの見方や考え方を広げる。スピーチでの自己PRを通し、経験を整理し場に応じて話すことを学ぶ。課題を解決するために話し合うことを通し対話力について考える。</p> <p>○「書くこと」について</p> <p>【第1学年】体験文、鑑賞文、案内文、図表を用いた報告文作成などを通し、目的や意図に応じて日常生活に関わることに ついて構成を考へて的確に書く。文章を読み合い互いの良さを発見する。</p> <p>【第2学年】新聞投書、写真をもとにした物語創作、お礼の手紙、4コマ漫画をもとにした意見文作成などを通し、目的や 意図に応じて社会生活に関わることなどについて構成を工夫して書く。文章を読み合い表現を高める。</p> <p>【第3学年】広告の批評文、図表等の資料をもとにした意見文、鑑賞文、作品集作成などを通し、目的や意図に応じて社会 生活に関わることなどについて論理の展開を工夫して書く。文章を読み合い自分の表現に生かす。</p> <p>○「読むこと」について</p> <p>【第1学年】文学的文章を通し、構成や展開、表現の特徴や語り手に着目して内容を捉える。説明的文章を通し、展開や表 現をおさえ筆者の見方や考え方を捉える。メディアと表現においてメディアリテラシーについて考える。</p> <p>【第2学年】文学的文章を通し、構成や展開の特徴や言動の意味、語り手の変化に着目して内容を捉える。説明的文章を通 し、全体と部分の関係や題・キーワードに着目して内容を捉える。メディアと表現においてメディアの解釈について考える。</p> <p>【第3学年】文学的文章を通し、場面や登場人物の設定の仕方や筆者の語りから内容を捉える。説明的文章を通し、構成や 論理の展開に着目して内容を捉え、読み比べて評価を行う。メディアと表現においてメディアに潜む意図を考える。</p> <p>○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について</p> <p>【第1学年】古文の音読・川柳・故事成語・日本語の音声・日本語の文字</p> <p>【第2学年】古文の読解・漢文(論語)・方言と共通語・話し言葉と書き言葉・敬語(知識・理解)</p> <p>【第3学年】和歌・古文・俳句・漢詩・和語・漢語、外来語・慣用句、ことわざ・敬語(社会の中での活用)</p>		
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成・排列について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7つ(3学年は8つ)の大単元の中に「読む」と「書く」、あるいは「読む」と「話す・聞く」の領域を組み込み、各領域を均等に、系統的・発展的に学習できる構成がなされている。</li> <li>各領域とも幅広い言語活動を通して基礎・基本的な能力や思考力・判断力・表現力を育成できるように系統的な単元構成となっている。</li> </ul> <p>○分量について</p> <p>【第1学年】 「話す・聞く」5教材、「書く」6教材、「読む」19教材であり、総ページ数は336ページ。</p> <p>【第2学年】 「話す・聞く」5教材、「書く」5教材、「読む」17教材であり、総ページ数は348ページ。</p> <p>【第3学年】 「話す・聞く」5教材、「書く」5教材、「読む」19教材であり、総ページ数は348ページ。</p>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○学習意欲を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会生活に活用できる言語活動を身に着ける「学びのチャレンジ」を掲載している。</li> <li>教材をきっかけに読書に親しむ態度を養うことができる「読んでみよう」を掲載している。</li> </ul> <p>○主体的に学習に取り組める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学び方を確かめられる「みちしるべ」を掲載している。</li> <li>学習者の知的な好奇心や探求心を喚起する「言葉の自習室」や豊富な副教材の読み物を掲載している。</li> <li>学習の見通しに役立つ「領域別教材目標一覧」「教材で扱う内容」を掲載している。</li> </ul> <p>○使用上の便宜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮し、識別しにくい配色を避け、形や記号などの補助の手がかりを設ける。</li> <li>言語能力と話題を組み合わせた新たな国語単元を創造し、学びが具体的に見える単元構成となっている。</li> </ul>		

様式2

教科名

国語

出版社名	教科書名	番号
光村出版	国語1・2・3	国語731・国語831・国語931

取扱内容

○話すこと・聞くことについて

第1学年・・相手に言葉を届けるための方法と相手の言葉の受け取り方を最初に学習し、それを元に自分の好きなものを紹介する活動を通して話の構成や順序、声の大きさや速さについて実践できるようになっている。後半では集団でディスカッションをする事を通して集団の話し合いでの話題の方向性や根拠を明確にして話をするというように発展的に活動できるようになっている。

第2学年・・1年生の活動を経てプレゼンテーションやパネルディスカッションという今日の社会において必要とされる力を育成できるようになっている。また、職場体験に行く時にも活用できる、「話を聞き漏らさずに情報をとらえる」ということが内容として扱われている。

第3学年・・社会との関わりについてスピーチをすることから始まる。1・2年生の時に培った力を元に社会のことについて考え、自分の意見をより上手に伝える方法を考えさせる内容である。後半では集団で1つの課題に答えを出すために話し合いをし、その流れの中でのような言動を取ることがいいのか考えさせている。

○書くことについて

第1学年・・学習の初めにノートの取り方の指導ができるように設定されている。その後、説明する目的や相手を明確にして情報を集め、それを整理して書くことに発展していく。この学習内容を踏まえてレポートの書き方（社会・理科）鑑賞文（美術・音楽）案内文（総合的な学習）新入生へのメッセージなど他の教科との関わりにおいても力を発揮できるように横断的なカリキュラムになるように作られている。

第2学年・・情報を集め、順序立てて説明できるように書くことが求められている。その際、ちょっとした言葉を取り上げたり、「推敲」をしたり「説得力」について考えるなど「より伝わる」ためにはということで1年生から発展した形となっている。

第3学年・・修学旅行記を編集する内容があり、学校行事との関わりを持たせている。「推敲」をしたり「古典を引用」したりと意図を伝えるための方法に膨らみを持たせている。批評文を書くことで社会で生きていくための自分の意見の持ち方を考えることができる内容になっている。

○読むことについて（伝統的な言語文化についても含む）

第1学年・・・ ○文学的作品においては4編の詩を読み比べて、形式や表現の特徴を考えたり音読をしたりする活動から始まる。その後も詩を数多く取り上げているのが特徴的。  
○物語については内容的にも共感しやすいものを取り上げられており、生徒も興味を持って人物の変化を様々な物差しから読み取れるように工夫されている。  
○説明文については段落の役割から文種の構成へと発展し、事実と意見の関係性を考えながら要旨をとらえられるようになっていく。  
○古典については「いろは歌」で歴史的仮名遣いに触れ、それを使って古文の響に触れられるようになっていく。漢文については故事成語から「矛盾」を取り上げ漢文としての初歩とともに故事成語についても効果的の取り組める内容である。

第2学年・・・ ○文学的作品については若山牧水らの短歌が取り上げられているが数も適度で扱いやすい。走れメロスなどの名作も取り上げられている。詩については3編ということで1年生よりボリュームが下げられている。  
○説明文についてはメディアや科学についての話を取り上げており、現代の中学生の問題につながるもので興味を持ちやすい内容である。  
○古典については「枕草子」や「平家物語」と今まで通りの掲載となっている。その中で2年生に「漢詩」を持ってきており、3年生での「俳句」「漢詩」「和歌」といった内容の重なりを防いでいる。

第3学年・・・ ○文学作品では「春に」「高瀬舟」「故郷」「初恋」と有名な作品が取り上げられている。その中で「書く事」と連動できるように小説を批評する活動も盛り込まれている。  
○説明文では新聞の社説を比較する事や「批評」のための言葉を探するなど社会に関わっていくために必要な力を育てられるようになっていく。  
○古典については「おくのほそ道」や「論語」などおなじみの作品が取り上げられる中、「万葉・古今・新古今」では15本と数多く取り上げられている。

○知識技能の習得について

第1学年・・・ 言葉の単位から始まる内容だが、説明が詳しく、具体的な例もわかりやすく色分けしながらポイントを押さえられるようになっていく。動詞の活用表や形容詞、形容動詞、助動詞の活用表も参考として収められており発展的な学習としても活用できるものとなっている。

第2学年・・・ 1年生の時に「文節」まで触れた上で2年生は「単語」へと進んでいる。「敬語」「方言と共通語」の問題も取り上げられている。公立高校入試でも最近見かける「熟語



	<p>の構成も」しっかりと掲載されている。</p> <p>第3学年・・・1・2年生で習った文法事項を文章の「推敲」に生かしたりする事で文法を習う意味を改めて実感できる内容になっている。慣用句やことわざ、故事成語など人生を豊かにしていく内容をしっかりと取り上げてある。</p>
内容の構成・排列・分量等	<p>○第1学年・・・考えを伝えたり、まとめるための基本的な技能の学習をした上で、個人から集団へと発展的に活動ができるようになっているとともに、他教科にも横断的に学習できるように配慮されている。</p> <p>○第2学年・・・1年生の学習を踏まえて内容を再度確認しながらもより深化させていたり、より実際の社会で役立つ力の育成という配慮がされている。</p> <p>○第3学年・・・1・2年生での学習事項を踏まえて社会生活に生かせるように集団の中で自分の思いをよりの確に伝え合えるようにという配慮がされている。</p> <p>※分量について</p> <p>第1学年・・・「話すこと・聞くこと」は6教材、「書くこと」は14教材「読むこと」は27教材となっており「書くこと」のボリュームが増えている。総ページは330ページ。B5版。</p> <p>第2学年・・・「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は13教材「読むこと」27教材と1年生の時より「読むこと」に力が移行している。総ページ328ページ。B5版</p> <p>第3学年・・・「話すこと・聞くこと」は5教材、「書くこと」は10教材「読むこと」は26教材となっている。総ページ310ページ。卒業までの日数も考慮して内容をおさえている。</p>
使用上の配慮等	<p>○各教材の冒頭に身につけるべき力「目標」を明示していて「学習の窓」においてポイントも押さえられており何をすべきかわかりやすい教科書となっている。</p> <p>○基本技能の習得から活用へと発展できるように教材が配置されている。また、その身につけた力は他教科に生かすことができるものとなっている。</p> <p>○教材自体のレベルは多少高いように感じるが、段階を追っているので学習に取り組みやすいはずである。</p> <p>○文章を書く際の様々なテーマ例が載せてあり、書くことに難しさを持っている生徒の助けとなるものである。</p> <p>○常用漢字表とあわせて各学年で習う漢字をサイズも大きく画数や書き順などを明記してあるので漢字の習得にも非常に使いやすい教科書である。</p> <p>○イラストや写真を数多く用いて視覚的な興味を引くように作られている。古典においてはフォントを替えるなどの視覚的な気遣いもされている。</p>
その他	

様式 2

教科名	国語	
出版社名	教科書名	番 号
2 東京書籍	新しい書写1～3年	書写731
取 扱 内 容	○硬筆について	
	第1学年・・楷書で字を書く際に調和する仮名の学習からスタートする。文字の大小や行の整え方を確認してから行書へと入る。最終的には年賀状や自分の名前、職場訪問時の手紙の書き方など学校生活で必要なことに活用できるようになっている。	
	第2学年・・1年生の時の行書における点画の省略までを学習しているのでそこから「筆順の変化」を学習できるようになっている。「楷書」と「行書」の基本的な学習を終えて場面に応じて「楷書」と「行書」を使い分ける学習でまとめてとしている。	
	第3学年・・身の回りの文字について考える活動を通して文字の使い分けを学ぶことができるようになっている。これまでの学習事項を踏まえて3年生で「ノートを書く」や「絵はがきを出す」「ポスターを作る」「願書を書く」といった実生活に必要な使い分けを学習することになっている。	
○毛筆について		
第1学年・・「大志」「新風」を使い字形について学習をする。その後、小筆を使って50音や文字の配列へと学習内容が発展していく。「美しい緑」が楷書のまとめ。行書では「太陽」で基本的な筆使いを学び「和音」一気に「連続」と「省略」まで学習する。		
第2学年・・行書で「詩集」を扱い、点画の形や方向の違いを学習する。その後、「国際社会」で筆順の変化を学ぶ。「流れる雲」で行書を仮名を調和させる学習をして2年生のまとめとなっている。		
第3学年・・既習事項を日常生活に生かすべく、文化祭の展示や卒業制作といったものにとりくむ。その際筆記具の選択や書式の選択など応用力を育てる作りとなっている。		
○硬筆と毛筆の関連について		
第1学年・・毛筆での練習の後に「硬筆」で同じ文字を書く活動が取り入れられており違いを確認できるようになっている。		
第2学年・・毛筆の練習の後に「硬筆」同じ筆の使い方をする文字をいくつか取り上げて確認し、他の文字にも生かせるようになっている。		
第3学年・・「広げよう」において筆記用具を選び文字を選ぶことで「硬筆」「毛筆」それぞれの学習事項を関連づけさせている。		

	<p>○知識技能の習得・活用・探求について</p> <p>第1学年・・・「年賀状を書こう」や「職場に手紙を書こう」という課題を設定し生活に生かすことで活用を試みている。</p> <p>第2学年・・・「掲示物を書く」作業を通じてどのような文字を使うべきか、どんな大ききで書くべきか探究心を育てる内容となっている。</p> <p>第3学年・・・学習して事を「入学願書の書き方」などに生かす事で活用力を身につけることができる。</p>
<p>内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等</p>	<p>○第1学年・・・小学校での学習事項の確認から楷書での筆使いや字形を学習してから行書へと基本が発展へと進んでいる。</p> <p>○第2学年・・・1年次の行書の基本を押さえて点画の「筆順の変化」と「形や方向の変化」へと発展できるように工夫されている。</p> <p>○第3学年・・・既習事項を使って実生活に生かしていくというように発展的なことができるような課題設定となっている。</p> <p>※分量について</p> <p>総ページ数は145ページ。前回よりも36パーセント増加している。その中で主体的な活動につながる課題設定が多く取り上げられている。</p>
<p>使 用 上 の 配 慮</p>	<p>○毛筆での学習の後、硬筆で同じ字を書くことで学習の確認と筆とえんぴつの違いを確認することができるように工夫されている。</p> <p>○課題については大きな見開きで見られるようになっており半紙を使用する際には参考にしやすいようになっている。</p> <p>○教科書自体のページを途中で折ることができるようになっており、活字だけを見て教科書に練習をする事ができるように工夫されている。</p> <p>○筆の流れが分かるように工夫されているとともに書き順も一部で明記されている。</p> <p>○学習した文字と同じ筆使いの漢字をとりあげて応用できるように工夫がされている。</p> <p>○教科書で扱う作品から課題を設定することで興味関心を引くように作られている。</p> <p>○数多くの写真やイラストが盛り込まれており興味関心が高くなるように工夫している。</p>
<p>そ の 他</p>	

教科	書写		
	出版社名	教科書名	番号
	三省堂	現代の書写 一・二・三	15
取 扱 内 容	<p>○硬筆について</p> <p>【第1学年】点画・部分の組み立て方・文や文章の整え方を確かめながら楷書で書く。丸み・連続・点画の変化を確かめながら行書で書く。今までの学習を生活に生かし行事の目標や本の紹介などを書く。</p> <p>【第2学年】行書に調和する仮名の特徴を見つけたり、文章の整え方を確かめたりしながら書く。今までの学習を生活に生かし手紙を書く。生活の場面と書体について考え楷書・行書を使い分ける。</p> <p>【第3学年】身の回りの文字の工夫を見つけ、掲示物や案内状などを効果的に書く。</p> <p>○毛筆について</p> <p>【第1学年】文字の整え方・筆使い・点画の組み立て方を確かめながら楷書で書く。仮名の字形と筆使いを確かめながら書く。行書の特徴を見つけ、基礎的な書き方を理解して書く。</p> <p>【第2学年】筆使い・省略・筆順の変化を確かめながら行書で書く。行書に調和する仮名の特徴を見つけて書く。</p> <p>【第3学年】身の回りの文字の工夫を見つけ、ポスターや短冊などを効果的に書く。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連について</p> <p>【第1学年】毛筆の学習の後に「学習のまとめ」として、硬筆で横書きで文字を書く活動。</p> <p>【第2学年】毛筆の学習の後に「学習のまとめ」として、硬筆で文学作品の一部を書く活動。</p> <p>【第3学年】これまでの毛筆の学習を生かして「学習のまとめ」としてポスターなど生活に生かしたものを書く活動。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応について</p> <p>【第1学年】「生活に生かそう」における行事目標、本の紹介を書く活動。「文化としての書く」における年賀状と書き初め。</p> <p>【第2学年】「生活に生かそう」における手紙、座右の銘を書く活動。文章全体を早く工夫。</p> <p>【第3学年】「生活に生かそう」における卒業記念冊子を作成する活動。</p>		
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○内容の構成・排列について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学習の見通しを持つ」→「学習する」→「復習する」→「学習を生かして主体的に書く」といった構成にすることで、3年間の活動を適宜振り返りながら系統的・発展的な学習ができる構成になっている。</li> <li>「考える書写」の実現を目指し、思考力・判断力・表現力を育む構成になっている。</li> </ul> <p>○分量について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年間で10の単元。総ページ数は118ページ。</li> </ul>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○学習意欲を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常の書式や文字の変遷、楷書・行書一筆表などの資料が掲載されている。</li> <li>国語科との関連を図った教材を掲載している。</li> </ul> <p>○主体的に学習に取り組める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「考えよう・話し合おう」「書いて確かめよう」「振り返ろう」の三段階に分けて学習の手順を示すことで、主体的に考えられる構成になっている。</li> <li>キャラクターが学習のヒントを解説することで主体的に考えられる工夫がされている。</li> <li>学習者が学習の見通しを持てるように「自分の文字や書き方をよりよくするために」「望ましい姿勢と筆記具の持ち方」「三年間で学んだ書写技能」を掲載している。</li> </ul> <p>○使用上の便宜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮し、識別しにくい配色を避け、形や記号などの補助の手がかりを設ける。</li> <li>3年間の学習の見通しを持てるよう、3学年を一冊の合本としている。</li> </ul>		

様式 2

教科	書写	教科書名		番号
	教育出版	中学書写		17
取扱内容	<p>○硬筆について</p> <p>【第1学年】字形・筆順のきまりを理解して書く。漢字と仮名の大きさや行の中心を理解して書く。漢字と仮名の大きさや排列を理解して様々な形式に合わせて書く。行の中心や文字の大きさを理解して行書で書く。</p> <p>【第2学年】行書の部分の書き方を確認して書く。書く速さを意識して書く。行書と仮名の調和や配列を理解して書く。</p> <p>【第3学年】身の回りの多様な文字に感心を持ち、効果的に文字を書き、日常生活に生かす。</p> <p>○毛筆について</p> <p>【第1学年】点画の筆使いと字形を理解して楷書を書く。筆脈と排列を理解して楷書と仮名を調和させて書く。楷書との違いを意識し、点画の連続と形の変化・省略を理解して書く。</p> <p>【第2学年】点画の連続と省略・筆順の変化を意識して行書で書く。点画の連続と配列・文字の大きさを理解し、行書に仮名を調和させて書く。</p> <p>【第3学年】点画の変化と連続・配列を理解して行書、または行書と仮名を調和させて書く。</p> <p>○硬筆と毛筆の関連について</p> <p>【第1学年】毛筆の学習の後に「学習を生かして書く」として『竹取物語』冒頭文を書く活動。</p> <p>【第2学年】毛筆の学習の後に「学習を生かして書く」として『枕草子』『平家物語』冒頭文を書く活動。</p> <p>【第3学年】毛筆の学習の後に「学習を生かして書く」として『おくのほそ道』冒頭文や俳句を書く活動。</p> <p>○知識・技能の習得、活用、探求への対応について</p> <p>【第1学年】「学校生活に生かして書く」において、発表会案内や新聞作りを書くなど、伝える相手や目的を意識して書く活動。年賀状・手紙を書く活動。</p> <p>【第2学年】「学習活動や日常生活に生かして書こう」において、新聞・ポスター・案内状など、書く内容や必要に応じて効果的に伝える工夫をして書く活動。</p> <p>【第3学年】「身のまわりの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書こう」において、卒業カレンダー・メッセージカードなど身の回りの文字の表現効果について考え、効果的に書く活動。</p>			
内容の構成・排列・分量等	<p>○内容の構成・排列について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書写学習の基礎・基本の習得場面と日常生活への活用場面で構成され、書く力を養い学習や社会生活に活用できる力を養う構成になっており、系統的・発展的な学習ができる。</li> <li>書写学習を通して思考力・判断力・表現力を養い、主体的に学習できる構成になっている。</li> </ul> <p>○分量について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3年間で9の単元。総ページ数は142ページ。</li> </ul>			
使用上の配慮等	<p>○学習意欲を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>書写の知識や日常生活での活用をわかりやすく示した「筆・墨・硯・紙について知ろう」「文字の変遷」「あの人が残した文字」「日本建築と書」といった読み物を掲載している。</li> <li>国語科との関連を図った教材を掲載している。</li> </ul> <p>○主体的に学習に取り組める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の三段階に分けて学習の手順を示すことで、主体的に考えられる構成になっている。</li> <li>学習者の知的好奇心や探求心を喚起する「書式の教室」「補充教材集」を掲載している。</li> <li>学習者が学習の見通しを持てるよう巻頭に「書く目的について」「姿勢と用具の使い方」「書写学習の構図」を掲載している。</li> </ul> <p>○使用上の便宜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カラーユニバーサルデザインに配慮し、識別しにくい配色を避け、形や記号などの補助の手がかりを設ける。</li> <li>3年間の学習の見通しを持てるよう、3学年を一冊の合本としている。</li> </ul>			

様式 2

教科名 国語

出版社名	教科書名	番号
38光村出版	中学書写1・2・3年	書写735

取扱内容

○硬筆について

- 第1学年・・・楷書で字を書く中で、字形を整えて書く練習ポイントをしっかり押さえさせている。その上で漢字とひらがなのバランスを取る練習をしている。その後「行書」入るが、点画の連続をする事に注目している。
- 第2学年・・・1年生の時の行書における点画の「連続」から「省略」まで移行している。2年間で習った「楷書」と「行書」のそれぞれの使うにふさわしい場面を考えて書くということでもとめとしている。
- 第3学年・・・文字を効果的に使うためにフォントの変化や手書きと活字の違いなどを選択する課題が取り上げられている。

○毛筆について

- 第1学年・・・小学校の時に学習した点画の種類と筆遣いを最初に持つてくることで確認をしてスタートできるようになっている。「地球」で筆使いを確認し、小筆で「いろは歌」を書くなど大小の筆遣いを学習できる。行書において点画の基本的な書き方を「緑」「木立」「月光」を使って習得できるようになっている。
- 第2学年・・・「調和」「紅花」を使いながら「点画の省略」と「筆順の変化」を学び「夕映えの空」で行書とそれに調和した仮名を書けるように設定している。
- 第3学年・・・書体を工夫して掲示物を書いたり卒業記念作品を書いたりしながら文字に興味を持ち社会で使える文字を習得していくことができる。

○硬筆と毛筆の関連について

- 第1学年・・・毛筆での練習の後に「楷書と仮名のまとめ」持ってきており、楷書の書き方を確認して学校生活に生かしていけるようになっている。
- 第2学年・・・「行書と仮名のまとめ」を取り上げ、文学作品の一部を硬筆で書きながら筆順や省略の仕方を確認できる。
- 第3学年・・・これまでの毛筆での学習を生かして卒業記念品を作る活動を取り入れ、文字を生活に生かしていく態度を養うことができる。

○知識技能の習得・活用・探求について

- 第1学年・・・植物の観察日記を書くなど実生活とのつながりある課題を取り上げることで探究心を

	<p>向上させている。</p> <p>第2学年・・・音楽祭を知らせるポスターを書かせる中で自分たちの学校生活に活用していく姿勢や力を身につけることができる。</p> <p>第3学年・・・習ったことを生かして「自分史」を作る活動につなげたり、卒業制作することで活用していく力を育てている。</p>
内容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等	<p>○第1学年・・・小学校での学習事項の確認から楷書での筆使いや字形を学習してから行書へと基本が発展へと進んでいる。</p> <p>○第2学年・・・1年次の行書の基本を押さえて点画の省略・筆順の変化へと発展できるように工夫されている。</p> <p>○第3学年・・・既習事項を使って実生活に生かしていくというように発展的なことができるような課題設定となっている。</p> <p>※分量について</p> <p>総ページ数は120ページ。前回よりも58パーセント増加している。その中で主体的な活動につながる課題設定が多く取り上げられている。</p>
使 用 上 の 配 慮	<p>○単なる課題の提示ではなく「コラム」などを使い文字や書に対する関心を引く工夫が随所に見られる。</p> <p>○3年間分を一冊にすることで見通しを持って学習できるようになっている。更に保存にも適している。</p> <p>○書写単独の課題とならないように国語の教科書に載っている作品を取り上げられている。</p> <p>○資料が数多く掲載されており、様々な場面でどの時を選ぶのがよいのかを考える事ができるようになっている。</p> <p>○筆使いのポイントを載せることで実際に書く時のポイントを押さえられるようになっている。また、実際の書く時の筆先の動きが分かるようにお手本に色づけがされているのもよい。</p> <p>○学習を振り返る欄がついていて学習のまとめがしやすい。</p>
そ の 他	

